

b) 産卵場、生物輸送、回遊又漁場形成などに関連して海洋の時空的(短期)変動の mechanism を究明し、その予報手段を与えるため、問題点をしぼつた集中的、基礎的又実験的研究が必要である。

今回の黒潮国際調査が水産海洋面においてまだ明らかにされない多くの information を与えるに違いないが、更に、今後における海洋研究の国際協力の道と、今後研究を必要とする具体的な問題点と手段を提供することを期待する。

4. ACMRRの第2回会議と分科会

宇田道隆 (東京水大)

ACMRR (海洋資源研究諮問委員会) の第2回会議 (1964年2月6～12日) と分科会 (シノブチック海洋学データの急速利用及び定点海洋観測問題、世界全体海洋調査計画——2月3～5日) が Rome の FAO 本部で開かれた。(宇田出席) なおこれに先立つて ICNAF 環境シンポジウム (1月27日～2月1日) も同所で開かれ大成功を納めた (宇田出席)。(ACMRRの総裁へ) 勧告2 . FAO がリードして、水産科学の研究進歩の年報 (Annual Review) を刊行。 勧告4 . 漁業者用の海洋学、海洋気象学的チャート (平均的又は集積的知見) の作業委員会設置。 尚勧告21 に漁業者向き天気と海洋学小冊子刊行が決定。 勧告5 . ギネア湾のイワシ類 (Sardinellaその他) 資源評価作業グループ結成、未開発資源を開発する新形式をつくり出すと共に海洋資源査定の新しいテクニックを用いる試験の場とする。 勧告6 . 魚類資源量 (fish abundance) のより迅速な推算の

ため、作業グループを任命し、音響学的研究と echometer 分野の最新進歩のレビューを求む。 勧告 7 . 第 2 回国際海洋学会議 (International Oceanographic Congress) (1966 年春、モスクー) は「海洋の資源」 - 「人類の福利のための海洋研究」を目標に掲げている。 F A O は積極的に表題のシンポジウム提案に決定。 勧告 17 に「エビの生物学と増殖のシンポジウム」 World Meeting on The Biology and Culture of Shrimps and Prawns) を 1966 ~ 67 年に F A O 主催で開くよう準備を進める。 勧告 8 . 将来発展の概観……世界の水産資源は大かた共通の資源で、優良蛋白質食糧の連続的資源として現在収獲しているものよりずっと大きな数量のものとしての潜在力をもっている。 A C M R R はそのような資源の利用基礎となるよりよい知識を切実に要求することを強調。

特に漁獲力の方々での急増が起し得る影響について深甚な憂慮を表明した。魚のストックの充分合理的な開発が多くの水域での漁獲努力の増加を要求している一方、漁船隊の急増とその移動力の増大が、生産能力限界を研究の明かにする前にある種魚族資源を乱獲に導こうとする大きな危険が生じている。漁業は国際的で、合理的開発のための基礎は、よく国際的レベルで調整せられた研究によつてのみ得られる。この爆発的状態にあつて F A O は主要な責任と最も重要な責任の役割を果さねばならない。 A C M R R は第 12 回総会の決議 A (F A O に世界海洋資源の合理的開発の研究分野における主導権を与え得るのに必要な手段を勧告するよう総裁から要請されていること) を特記した。それは要求された研究計画の重大な考察を与え、その結果の適用を具現するためとられるべき手順と、その計画を実行するのに必要となる「水産部」の機構改革を含む。

A C M R R は F A O の海洋資源研究計画が、次のような目的対象をもつて発展せしめらるべきことを勧告する。

- (a) 海の生物資源の評価、それらの長期的生産能力の推算も入れて。
- (b) 人類に対して最大の長期的価値を得るように漁獲努力を調整する科学的基礎のための知識。
- (c) 資源改良のため必要な理解。

A O M R R は優先の順序に、これら 3 研究路線を推進すべしとし、実際既に進行していることを強調、(a)がある水域でよく進められており、(b)がある所で必要とされているというように平行的に進められ、(c)に対して必要な基本的研究は今活発にはじまっているが、一般に実行されるようになるまでは多くの時間と努力が要る。このような目的に到達するには、A O M R R は F A O が今進めているような仕事を続けるべきこと、すなわち、科学者、研究機関、関係政府に対する技術的サービス、合同活動に対する機能開発、政府への直接援助のごとき。F A O のこの分野における活動は奨励されるべきもので、継続を必要とするものである一方、A O M R R は F A O が海洋資源研究の世界計画を発展さす直接のステップをふむことを強く要求する。それは地域団体、各国及び他研究機関の活動調整のためのワクを定めると共に埋めらるべき残りの間隙を明示するだろう。A O M R R は、F A O が重要潜在価値をもつ研究企画を活発にはじめるか、続行するかによつてかような間隙をうずめる 1 部の役割を果すことができるようにすべきだと強調する。かような参加は重要な必要をみたすことを保証するだけでなく、F A O を海洋生物資源研究の進歩と主導に必須な高い能力をもつ科学者のサービスをもとめるのを助けるだろう。F A O のこの分野の計画は F A O の人々にも、世界の他の人々にも興奮刺激を与えるものにちがいない。F A O 第 12 次総会で採択された漁業開発決議と呼応して、A O M R R は、即時とるべきステップとして、この目的のために他の国際的漁業団体、各国政府及び科学者

との協議を含めて、これを実行に移すのにたどるべき手順の提案をこめた詳細な計画をつくるよう示唆する。A O M R Rはこの目的のため第3次会議に報告するよう一作業委員会設置を勧告する。その任務ととりくむのにこの作業委員会は、漁業研究世界計画 (the World Program of Fisheries Research) でその水産面に「世界海洋研究全般科学的骨組 (G S F for World Ocean Study) をとり入れるべきこと、関係する活動が I C S U (国際学術連合) の I B P (国際生物学計画) の下にとりあげられて然るべきことを銘記する必要がある。A O M R Rは「水産部」の「生物班」がもしその地位を加善し、その人員予算を増加するならばそれだけで上記計画を実行できることを強調、提案された計画実行にはもつと人員予算が必要となり、実際既定の責務を充分果そうとするだけでも要る。他団体と共にその影響が強くなるべきなら地位改善が必要。新規強化と士気のためにも重要。A O M R Rは F A O 総裁に「水産生物班」を F A O の 1 「部」の地位に引きあげ、その人員予算を実質的に増加すべきことを最強に勧告する。最後に、A O M R Rは上記提案が海洋生物資源研究のその水産開発のごく一面に関係することに注意を求める。一方これは高い優先をもつ A O M R R の任務であり、それら資源を人類の福利のため充分利用することは同時に経済的、社会的技術的諸問題解決に依存し、F A O にとって水産部の他の部分の地位の並行的改善を求めることになつてくる一つの先導的役割を果すよう求めるので、結局は水産部全体の改善の問題になる。

勧告 9 . 水産行政の世界セミナー..... A O M R Rは現在実際知見をもちよる必要がある (発達しつつある後進国に大いに役立つ) と考え、水産研究行政を論議する世界セミナーはもし注意深く計画されるならば有用なものとなろうと勧告した。この論議には、大きな複雑な研究を

やつているところの人々と同時にわりあい簡単な研究の組織にたずさわ
る人々を選定して、一連の報告を準備してもらつてそれに基づいてやる
ようにすべきである。……一般的な緒論的論文も準備さるべきで、この
ことは著者の個人的経験に基くべきだが事実の叙述に基きその“国”の
論文に表明された意見に基くべきである。

緒論文は、

- 1) 各国内及び国際的水産資源保存の中の水産研究の位置。
- 2) 水産研究を助けるについての水産行政の効用。
- 3) 水産研究中の行き過ぎた管理行政 (overadministration)。
- 4) 水産研究計画の予算的におこる一般諸問題。

ACMRRは次の諸国に水産研究行政上の論文報告を求めるよう勧告
する。米国、カナダ、ポーランド、ソ連、ノルエー、インド、エスラエ
ル、英国、日本、濠州、フランス、ドイツ、ペルー、アイボリーコース
ト (アフリカ)。

(その他は一応省略)

勧告 25 . Tropho-dynamics のシンポジウム

色々な栄養水準での生産の学力的モデル開発のためのシンポジウム可能
性研究のために作業委員会を。

5. 標識サバ「大室出し」より八戸沖へ泳ぐ

宇田道隆 (東京水大)

東京都水試大島分場指導船「やしお」(13.78t)では昭和38年5月
23日、大室出し(伊豆大島波浮港SE10哩の大漁礁)で大中マサバ